

## 第 62 回日本生態学会大会で発表しました

平成 27 年 3 月 18 日から 21 日に鹿児島大学郡元キャンパスにおいて、第 62 回日本生態学会大会が開催され、財団から森が参加しました。日本生態学会は、生態学分野では日本最大の学会で、毎年 1000 人以上もの研究者が集まります。

森は大会 2 日目に「伊豆沼・内沼におけるクロモ復元に向けた増殖方法の検討」というテーマで口頭発表しました。伊豆沼・内沼では、かつて沼に広く分布し、水質維持に寄与していたクロモという植物が減少傾向にあり、自然再生事業の中でクロモを対象とした積極的な保全活動を実施しています。当初、私たちはクロモを一本一本丁寧に植栽していました。しかし、アメリカザリガニが食べてしまったりして、この試みは上手く行きませんでした。そこで、クロモを大量に増殖し、それを沼に植栽する方法（大規模植栽法）を開発しました。平成 25 年度にこの方法で伊豆沼南東岸に約 1 万株のクロモを植栽しました。その結果、植栽したクロモは生き残り、翌年の夏に群落をつくりました。また、群落からクロモが拡散し、近辺に分布を広げました。沼のクロモが減少してきた中、大規模植栽法は、伊豆沼のクロモ群落を復元するために有効な方法になりそうです。私たちは、今後この方法を軸にクロモ復元を進めたいと考えています。

生態学会大会は国内外から多くのすぐれた研究者が集まり、最新の研究成果を学んだり、披露する絶好の場です。発表後の質疑応答では、国内のクロモの研究者と意見を交わしました。その他、関連する多くの発表を聞き、有意義な時間を過ごしました。

こうして得られた知見を、今後伊豆沼・内沼における保全活動、調査・研究などに還元していきたいと思えます。



口頭発表会場の様子



ポスター会場の様子